

# 思い出をありがとう

## 志知・三原高校が3月に閉校

全国的に少子化が進み、高校へ入学する生徒数が年々減少している中、兵庫県では、授業や部活動などの教育活動を活性化させようと、市内の2高校を統合します。これにより本年3月に志知高校と三原高校が閉校。これまで積み上げてきた両校の伝統や特色が、統合した淡路三原高校へ継承され、新たな一歩を踏み出します。



▲志知高校校舎

### 志知高校の歴史

- ▼昭和48年4月 洲本高校の緑・西淡・南淡の3分校を統合し、洲本高校三原西分校（松帆古津路）となる
  - ▼昭和50年4月 県立志知高等学校を設立
  - ▼昭和51年1月 新校舎完成。志知佐礼尾に移転
  - ▼昭和61年7月 校外一斉清掃奉仕作業を開始
  - ▼昭和63年6月 ボランティア同好会発足。後に部に昇格
  - ▼平成元年6月 だんじり唄同好会発足。後に郷土芸能部
  - ▼平成9年8月 ボランティア活動が評価され、全国高校野球大会開会式で大会史上初の選手先導役を生徒が務める
  - ▼平成12年11月 和太鼓「翔」デビュー、後に和太鼓部
- ★卒業生総数5059人(予定)



▲授業風景（教室、体育館）

▲三原高校・淡路三原高校の校舎、4月からは淡路三原高校生のみが通います

### 三原高校の歴史

- ▼大正8年3月 三原郡広田村に、不動りつ裁縫私塾を開設
  - ▼大正10年3月 私立真如裁縫女学校を設立
  - ▼昭和8年1月 三原郡市村青木に移転
  - ▼昭和9年10月 私立真如実科高等女学校に改称
  - ▼昭和18年4月 真如高等女学校に改称
  - ▼昭和19年3月 三原郡内19ヶ町村組合立に移管、兵庫県三原高等女学校に改称
  - ▼昭和22年4月 兵庫県立に移管、県立三原高等女学校に改称
  - ▼昭和23年4月 学制改革により県立三原高等学校に改称。男女共学、全日制、普通科と家庭科（のち家政科、昭和47年まで募集）を設置
  - ▼昭和25年3月 市円行寺に移転
  - ▼昭和27年4月 郷土部が発足
  - ▼昭和61年4月 普通科に理数コースを設置。（のち科コース）
- ★卒業生総数2万2990人(予定)



▲田中さん

「今の私がいるのは・・・」

志知高校卒業生・田中愛里さん

私が志知高校に入学した理由は、福祉の分野に力を入れており、その特別な授業もあったからです。私はボランティア部で3年間活動しました。独居老人に手紙を書いたり、知的障害者の作業所の夏祭りを手伝ったり、老人ホームの入所者とお散歩したり、いろいろなことをしました。そこで私は、人は誰かと支え合って生きていく事に改めて気付かされました。

私は卒業後すぐ特別養護老人ホームに就職し、介護をしています。そこは聴覚障害者が安心して暮らせるようにと建てられた「ふくろうの郷」

### 志知高校からのご案内

- ◆閉校記念式典 2月28日(土) 午前11時～、同校にて。式典後、だんじり唄「岸壁の母」、和太鼓「志知永翔」を披露。一般入場可(要事前申込 2月6日までに)
  - ◆記念誌 志知高校の足跡を広く知っていただくために希望者に販売します。一冊1,100円(送料400円)。3月6日までに
- ☎志知高校 ☎42-4433

### 新たに誕生した 淡路三原高校

三原高校と同じ敷地内に平成19年4月に開校した淡路三原高校は、志知・三原高校の伝統と特色を引き継いでいます。

- ◆特色
- ①多様な進路に応じた5つの類型を設置。類型ごとに専門科目を選択可能に
  - ②理数系の専門分野を深く探求するサイエンスコースを設置
  - ③キャリア（職業観）教育の観点から大学・専門学校・企業などと連携
  - ④郷土芸能の伝承活動を中心とした学校文化を創造
  - ⑤福祉・ボランティア活動を実践することにより、地域に根ざした学校として、豊かな心を育む教育活動を推進



▲雨堤さん

「ゆずりはのように、強い人間に」

淡路三原高校生徒代表・雨堤俊大さん

私たちが淡路三原高校生は、三原高校と志知高校がそれぞれ築き上げてきた「文武両道の精神」や「慈愛の心」など、すばらしい伝統を受け継ぎ、

三原平野に広がる豊かな自然の中で、成長していきたいと思えます。

校章に描かれている「ゆずりは」は常緑樹としても有名で、このゆずりはのように、雨にも風にも負けない強い心と体を作りたいと思います。地域の皆さまのご期待に応えられよう、新しい校風づくりに一生懸命取り組みます。